

抗レジ協発表ポスターの説明文書（日本語）

皆さん、こんにちは。

今回は”Registration System of Anti-*Legionella* Chemicals and Results of External Quality Assessment for *Legionella* Testing”について報告します。

The Japan Association of Anti-*Legionella* Chemicals for Cooling Water は有効で安全性の高い抗レジオネラ用水処理薬剤の供給とレジオネラによる水環境の汚染に関する正しい知識の普及を目的として、1991年6月に日本国内の民間水処理企業によって設立されました。現在の参加企業は17社です。私たちの活動としては、レジオネラ症防止のための啓発活動、抗レジオネラ用水処理薬剤の登録制度の維持、レジオネラ検査の精度向上に向けた活動が挙げられます。

はじめに、レジオネラ症防止のための啓発活動を紹介します。冷却塔管理者向けに”Guidance on Prevention of Legionnaires’ Disease in cooling Water Systems”を作成して2001年から配布しています。また、ウェブサイト上でレジオネラ症防止に関する情報を提供しており、空調用冷却水おけるレジオネラ症を防止するための啓発活動を展開しています。

次に、抗レジオネラ用水処理薬剤の登録制度について説明します。私たちはそれぞれの企業が独自に実施していた水処理薬品の有効性や安全性の評価方法を統一して、1992年に抗レジオネラ用空調水処理剤自主基準（Voluntary Standards of water treatment chemicals で良いか?）を制定しました。自主基準は（1）目的、（2）適用範囲、（3）有効性の確認、（4）安全性の確認、（5）表示事項、（6）排水による環境汚染の防止からなり、私たちは1993年からこの自主基準に適合する製品の登録制度を運用し、当協議会登録薬剤としてリストを公表しています。登録薬剤リストは、商品の追加、削除を含めて適宜改訂されており、最新版はウェブサイトから閲覧できます。現在の登録薬剤数は174品目です。登録薬剤のレジオネラに対する有効性は各社が実施するレジオネラ検査の結果を集計することで示されています。こちらのポスター中ほどのグラフは2011年から2021年までの10年間の冷却水系のレジオネラ検査データから、登録薬剤処理系統と殺菌剤無処理系統のうち100 CFU/100 mL以上レジオネラが検出された割合を示しています。各プロットは10000以上のデータを解析した結果です。無処理系統と比較して登録薬剤処理系統の方がレジオネラの増殖抑制に有効なことがわかります。

次に、レジオネラ検査の精度向上に向けた活動について説明します。レジオネラ対策において、対象水系のレジオネラ汚染の実態把握、およびレジオネラ対策の有効性を評価するためのレジオネラ検査は重要で、その検査には高い精度が求められます。私たちは会員各社のレジオネラ検査精度の向上に取り組んでいます。レジオネラの検査方法はISO 11731:2017に記載されている方法に準じますが、各社により若干の違いがあります。私たちは冷却水系のレジオネラ検査精度の向上を目的として検査方法の標準化に取り組みました。標準化した検査

方法の詳細はウェブサイト上に公開しています。検査方法の標準化により会員各社の検査方法が改善された2013年以降、英国のPublic Health England（現在のUK Health Security Agency）が主催するレジオネラ検査精度管理試験（External Quality Assessment for *Legionella* isolation）に参加しています。2015年には標準化した検査方法を再度見直して、更なる検査精度の向上を図りました。その結果がポスター下部のグラフです。各社でばらつきは見られますが、2015年の検査方法見直し以降、Zスコアは改善傾向にあります。会員企業が外部精度管理に参加して一定の基準を満たした場合、当協議会が認定する制度を設けました。認定を受けた会員企業が発行する検査結果報告書やその他の書類に、ポスター右下にあります青色の認定マークを載せることができます。

本協議会は今後も冷却水系の衛生管理の土台であるレジオネラ属菌検査の精度向上に努めます。また、継続してレジオネラ属菌対策の啓発活動を進め、冷却水系を感染源とするレジオネラ症の防止に取り組みます。

以上、ご清聴ありがとうございました。